



学校便り「尚徳」2月号
第497号

鳥取大学附属小学校

平成26年2月19日

<http://www.fuzoku.tottori-u.ac.jp/~fusho/>

題字「尚徳」は、住川英明教授（地域学部）



自分の中にモデルを

副校長 北村 順子

4年に1度の冬のスポーツの祭典、冬季オリンピックがいよいよ開幕しました。今年の開催地はロシアのソチ。日本中が、出場選手の活躍に熱狂する日々が続いています。今回は、10代の選手の活躍が期待され、それに見事に応えている選手達がいます。その中の一人が、金メダルに輝いたフィギュアスケートの羽生結弦選手。仙台出身の彼は、東日本大震災で被災し、練習会場もなくし、その中から復活を遂げたことでも知られています。先日、彼を取り上げた新聞記事を読みました。羽生選手は小さいころから、ロシアのプルシェンコ選手に憧れていたそうです。プルシェンコ選手はロシアの皇帝とも称される有名なフィギュアスケーターです。小さいころのマッシュルームカットもプルシェンコ選手をまねたものだそうです。羽生選手にとっては、プルシェンコ選手が将来なりたい自分のモデルだったのです。そのモデルに近づくために一生懸命努力を重ねたのです。

自分の中に、なりたいモデルを見つけること。これは子どもたちにとって、いえ私たち大人にとっても、とても重要なことだととらえます。モデルがいることは、目標が明確になり、努力することが具体的にになってきて、イメージしやすくなってきます。モデルは本の中の登場人物、歴史上の人物、一流のスポーツ選手などなかなか手の届かない人の場合も多いでしょうが、それだけではありません。身近な人、身の回りにいる人の中にも、あの人みたいにな

りたいな、あの人のあの部分をまねしたいなと思うことがあります。

昨年度より始めた毎週水曜日の昼休憩に行く「わくわくタイム」。これは、帰属意識の醸成を目的として設定したものです。そしてもう一つ期待したのが、上学年の児童が下学年のモデルになってくれたらということでした。1年生にとって6年生は、5つも年上のお兄さん、お姉さんです。優しく接してくれたり、親しく声をかけたりしてくれることは、きっと心の中に温かい思い出として残ることでしょう。そして、自分が最上級生になったとき、同じことを低学年の児童にしてくれることと思います。また、5年生にとっては6年生の動きが、自分の来年の姿となって映っていることでしょう。企画、運営の仕方、低学年への対処の方法など6年生の姿が身近なモデルなのです。

また、クラスの中でもモデルは見つかることでしょう。「〇〇さんの話を真剣に聞く姿はすごい」「〇〇さんのノートはいつも見やすくまとめてある。どんな工夫をしているんだろう」「〇〇さんの黙々と一生懸命掃除をする姿はまねしたいな」「〇〇さんのわからないことをそのままにしないですぐに調べるところは自分にはないところだな」などなど。自分にはない友達のよさに気づき、それに近づこうと努力する、その過程が重要だと思うのです。

私自身も回りのたくさんの人達から、多くのことを学び、実践していきたいと思います。いくつになっても成長し続けることができるのですから。

【新しい給食室】

給食再開！

お世話になりました

昨年9月の終わってから約4か月間の給食室改修工事が終了し、2月5日から給食が開始となりました。この期間中、お弁当作りなどで保護者の皆様には大変ご苦勞をおかけしました。ご協力ありがとうございました。

2月5日の献立は、わかめすまし汁・肉じゃが・コロッケ・煮びたし。久しぶりの給食に舌鼓をうった子どもたちです。「おしるがあたたかいよ。」「給食のにおい、なつかしいな。」などの感想も聞かれました。豊田栄養教

諭の話によると、残菜も非常に少なく、各クラスともよく食べていたとのことでした。

新しい給食室にはいろいろな工夫が施されています。施設や調理器具が新しくなったのはもちろんのこと、調理員さんが給食を作っておられる様子が窓越しに見えるようになっていました。給食室には、低学年の児童でも見やすいように低い窓ができています。そこからは、大きな鍋等の器具類、一生懸命作っておられる調理員の方々の姿を見ることができます。以前は、中の様子がわかりませんでした。が、これからは、私たちの給食がどうやって作られているのか

よくわかります。

「食べる」ことは、児童の健全な身心の成長を根本から支える重要なポイントです。豊田栄養教諭を中心に調理員さんが心を込めて作ってくださる給食を感謝の気持ちを込めて、いただきたいと思います。



